

【筑西市の現況】					
	位置・沿革・自然・交通、人口	農業	商・工業	観光	文化・歴史
魅力・強み	<ul style="list-style-type: none"> 東京から約70km、2時間圏内に位置する。 河川、緑豊かな里山、平地林など豊かな自然環境に恵まれている。 国道50号下館BP開通により、交通渋滞の緩和及び安全性の向上が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 米、キュウリ、梨、こだまスイカなど、全国トップクラスの品質と生産量を誇る農産物を多数栽培している。 農業産出額は茨城県トップクラスである。 水稻の作付面積及び収穫量は茨城県トップクラスである。 米の品質には定評がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 菓子業が主要産業の1つであったことから、独自性のある商品構成の菓子店が複数存在している。 豊富な農産物に加え、醸造製品、キムチ、ラーメン、米菓など多様な特産品がある。 市内に7か所の工業団地を有し、多様な工場が立地している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然や農業、歴史を基調とする多くの地域資源を保有している。 筑波山、稲田、ひまわり、コスモス、鮭の溯上など四季を感じる風景が魅力である。 下館祇園まつりは県内屈指の行事である。 SLが関東地区で唯一通年土日運行をしており、全国から鉄道ファンが訪れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化遺産や史跡、伝統文化を多数継承している。 板谷波山、森田茂の二人の文化勲章受章者を輩出し、文化、芸術活動が盛んである。 県内唯一の市立美術館である「しもだて美術館」を有している。 地元有志による文化活動が盛んである。
弱み	<ul style="list-style-type: none"> 旧市町間の交流、協働が不十分である。 少子高齢化、核家族化の進行による活力の低下が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> 農業産出額は減少傾向である。 農家の高齢化及び跡継ぎ不足が深刻である。 農家数、農家人口ともに減少傾向で、とくに40歳以下の減少が顕著である。 市民農園は市内に2か所のみである。 市内に観光農園がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通環境の変化や事業者の高齢化等により中心市街地の商業は衰退傾向にある。 商店街の閉店が相次ぎ活力が低下している。 大型店舗との競合、市外への消費者の流出など商業者を取り巻く状況は厳しい。 継続的な活性化取組が図れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 入込客数はイベント開催に多い夏に集中している。 目的地になるような目玉施設が少ない。 首都圏から2時間圏内の好立地や自然等の豊富な観光資源を活かし切れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化財を巡る周遊ルートが確立されていない。 美術館以外に、「板谷波山」「森田茂」をPRする場所が不足している。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 合併後の旧市町間の交流促進。 国道50号BP開通による利便性向上に伴って見込まれる交通量増加、物流の効率化を活用した振興方策。(交流促進および市街地への誘導など) 市外からの交流人口拡大の取り組み。 	<ul style="list-style-type: none"> 生産環境の維持および向上。 他の産業との連携、新たな販路開拓。 都市と農村の交流拡大。 農産物および加工品のブランド化。 立地と環境を活かした果物狩り等の観光農業や市民農園、貸し農園の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 農業と工業・商業との連携による特産品の加工・販売などの6次産業化。 観光農業、農業体験の推進など、筑西市の魅力を活かした交流型産業の創出。 筑西市の商品を内外に発信、PRする場。 ニーズの変化に対応した新たな事業展開。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じての観光客の取り込み。 市の有する資源に磨きをかけ、魅力ある観光資源として積極的に活用。 個性である“農”を活かしたグリーンツーリズムや体験・滞在型観光など、新たな観光コンテンツの創出。 	<ul style="list-style-type: none"> 市の有する歴史・文化などの見直し。 周遊ルートの構築など有機的な連携方策を検討し、個性ある観光資源として市内外に発信。 「板谷波山」「森田茂」を市の魅力としてPR。

【筑西のまちづくり活動】

- 多様な団体によって様々な地域活性化に資する活動が行われている。
- コミュニティ活動、各種団体の参加・協力による伝統行事、交流活動等の自治会活動が盛んである。
- <課題>特産品開発など、内容によっては地域活性化の取り組みが持続しないものもある。

活動の活発化のため、活動団体同士の交流を促進し、更に広く内外に発信することが必要。

活動機会や場所、活動内容の周知や成果発表の場等の活動拠点が必要。

【筑西市総合計画】

■将来都市像
人と自然 安心して暮らせる 共生文化都市
～市民との協働で進める筑西市の創造～

■後期基本計画における3つの視点

- ①筑西市の一体感づくり
- ②筑西市の元気づくり
- ③協働の実践のしくみ・体制づくり

【筑西市建設計画】

■骨格的プロジェクト「魅力向上・活性化プロジェクト」

特産品販売拠点整備
(農業体験・研究・加工施設整備関連) (物産センター整備関連)

【トレンド】

■道の駅とは(国交省):「地域とともにつくる個性豊かなにぎわいの場」

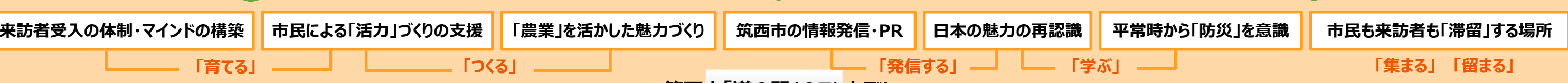
■地域活性化の成功事例<地域の魅力づくり><市民の元気づくり>

- ・「フレッシュパークからり」「東山道伊王野」「馬路村」「おやき村」
- ⇒住民が地域の魅力を掘り起し、造り、磨きをかけ、生まれた地域の活力が魅力となり、多くの観光客を惹きつける。

■人気のある道の駅: **様々な楽しみ方があり長時間滞在できる「滞在型」**

遊具	体験メニュー	食事充実	オリジナル商品充実
リラックス(足湯、景観、温泉)			地域コミュニティ施設

■日本の魅力の再認識
オリンピック開催やインバウンド施策が功を奏し空前の日本ブームが到来
⇒「和食」、「日本酒」、「日本の里山・原風景」、「日本文化」が注目。



筑西市「道の駅」のコンセプト

